

# 基盤整備 委員会

## 重点調査項目

- ① 自然資源を活用した新エネルギーの導入について
- ② 耐用年数が過ぎた公共物（道路・水路・橋梁・水道など）の効果的な運用について

### 自然エネルギーの活用・導入

高山市の掲げる環境政策「自然エネルギー利用日本一」のため、今年度は新エネルギービジョンの策定予定であり、エコ住宅の新築・リフォーム、地域産材を利用した木造住宅建築、ペレットストーブの購入、太陽光発電に対する助成制度のほか、小水力発電、公共施設のLED照明化、プラグインハイブリッドの公用車への導入など、地球環境負荷の軽減のための施策を展開している。

政策検討市民委員会からも提言がなされ、基盤整備委員会としても重点調査項目に掲げ意見交換会を行うなど、調査研究を進めているところです。

道路・水路・橋梁・水道など、耐用年数が過ぎた公共物の構築に



高山市建設業連絡協議会との意見交換

### 【公共物の効果的な運用】

は莫大な費用がかかるため、今後は長寿命化やアセットマネジメントの視点に立ち、効率的かつ効果的な維持管理に取り組む必要がある。調査研究の一環として高山市建設業連絡協議会の皆さんと意見交換会を行い専門的な立場からご意見を伺った。

### 小水力発電の情報

農業用水を活用した小水力発電については岐阜県が導入の検討を進めており、荘川町の中央用水が有力な候補地として選定され期待されている。

### 【地熱利用のバイナリー発電の可能性】



中尾温泉の源泉地

奥飛騨源泉所有者組合と中尾温泉において、焼岳における地熱発電の可能性について

意見交換会を実施。昭和40年代、神岡鉱山の調査で2〜3万kwの発電能力があるとの報告がある。中尾温泉組合は8本の源泉を所有し現在の5本が稼働中で、固定買取制度を活用して温泉発電による売電ができれば源泉の維持管理に充てることができる。発電した電気を電気自動車の充電スタンド

用に供給して乗鞍岳へのマイカー乗り入れを検討してはどうか。新たに温泉を掘って発電するのではなく、現在ある温泉を活用するバイナリー発電とすれば温泉には支障をきたさない。政策検討市民委員会からの提言もあり、エネルギーの地産地消という観点から積極的に取り組むべきであるなどの意見が出された。

### 【木質バイオマスエネルギーの現状と課題】

バイオマスとしてのペレット・薪の利用促進について、高山市で発生する木質バイオマス資源のほとんどが製紙原料や堆肥などにリサイクルされているものの、林地残材（間伐材）については未利用であり、これらを燃料とした「木質バイオマス発電」の導入の可能性を検討し、バイオマス資源の利用率向上、林業での雇用創出と森林保全を図るとともに、森林の多い市域で



あるからペレットについてもアピールするべきではないかとの意見が出された。